

平成29年度に係る業務の実績に関する評価結果
国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学

1 全体評価

奈良先端科学技術大学院大学は、先端科学技術の基盤となる情報科学、バイオサイエンス及び物質創成科学の3分野に係る研究の深化と融合を推進するとともに、優れた研究成果に基づく高度な教育により人材を育成し、もって科学技術の進歩と社会の発展に貢献することを目的としている。第3期中期目標期間においては、奈良先端科学技術大学院大学の創設の趣旨及びミッションに基づき、国際競争力を一層強化するとともに、科学技術の大きな変化と新たな社会的要請に応えるために、教育研究体制を改組し、情報科学、バイオサイエンス及び物質創成科学の融合性を高め、先端科学技術研究の新たな展開を先導する国際的な教育研究拠点としての地位を確立することを基本的な目標としている。

この目標の達成に向け、学長のリーダーシップの下、世界をリードする先進的な研究を推進するため、情報科学、バイオサイエンス、物質創成科学分野とその融合領域における世界レベルの研究活動を展開するほか、国際的な教育研究環境の構築に取り組むなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

（「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について）

第3期中期目標期間における「戦略性が高く意欲的な目標・計画」について、平成29年度は主に以下の取組を実施し、法人の機能強化に向けて積極的に取り組んでいる。

- 「新研究科運営準備プロジェクトチーム」を「戦略企画本部」に設置し、グローバルリーダーの育成に向けた5年一貫の博士コースの設置に向け、対象学生の選抜方法や「複数指導教員制」による多角的な研究指導の実施、3か月以上の期間にわたる海外研究留学体験の実施などの教育体制や運営方法を設計している。（ユニット「先端科学技術を担うグローバルリーダー育成のための世界水準の大学院大学の構築」に関する取組）
- 世界をリードする先進的な研究を推進するため、情報科学、バイオサイエンス、物質創成科学分野とその融合領域における世界レベルの研究活動の展開等により、451報の論文を国際誌等において発表しており、中期計画に定める数値目標を達成している。また、これらの取組の効果により、Top10%論文割合は11.53%、国際共著論文割合は28.16%となっている。（ユニット「研究大学としての国際的地位の確立」に関する取組）

2 項目別評価

<評価結果の概況>

	特筆	一定の 注目事項	順調	おおむね 順調	遅れ	重大な 改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化			○			
(2) 財務内容の改善			○			
(3) 自己点検・評価及び情報提供			○			
(4) その他業務運営			○			

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善 ②教育研究組織の見直し ③事務等の効率化・合理化

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載13事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成29年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

○ 年俸制教員の拡充

能力や成果に応じてインセンティブを付与する「年俸制」を、年度計画に掲げる新規に採用した全ての助教21人に加え、新規採用の教授3人・准教授3人にも適用している。この結果、中期計画に掲げる年俸制適用教員割合を35%とする目標の達成に向け、その割合は約32%（平成28年度比約3.7ポイント増）となっている。

(2) 財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加 ②経費の抑制 ③資産の運用管理の改善

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載4事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成29年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

○ URA活用による外部資金獲得

教員や研究者の外部資金獲得を強化するため、「研究推進機構」に配置したリサーチ・アドミニストレーター（URA）が中心となり、政策課題型外部資金に関する事業説明会等の開催や大型外部資金への申請に伴う事前相談を実施するなど、組織的な支援を行った結果、平成29年度における受託研究に係る外部資金比率は約10.2%となっている。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実 ②情報公開や情報発信等の推進

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載2事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(4) その他業務運営に関する重要目標

①施設設備の整備・活用等 ②安全管理 ③法令遵守等 ④その他の重要目標

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載15事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成29年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

○ 女性教職員活躍のための環境整備

女性教員の採用の促進に向け、学長裁定により策定した「多様な教員の採用計画」に基づき女性教員限定公募を実施するとともに、「重点戦略経費」を確保し女性研究者の研究活動を支援している。また、育児との両立の観点から、通常の保育サービス（保育園等）ではカバーできない育児支援として、ベビーシッター会社と法人契約を締結し利用費補助制度の導入や学内にベビールームを整備するなど女性活躍のための環境整備に取り組んでいる。

Ⅱ. 教育研究等の質の向上の状況

平成29年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

○ 国際的な教育研究環境の構築

海外学術交流協定校との教育連携等について、既に整備済みの5つのダブル・ディグリープログラムに加え、新規プログラムを設置するなど海外大学との連携構築を積極的に進めており、337人の留学生を受け入れるとともに、博士後期課程においては、中期計画に掲げる留学生の割合40%の目標を上回る約43.9%となっている。また、「海外留学支援制度」等を活用して、単位取得を伴う学生海外派遣や海外学術交流協定に基づく外国人留学生受入れにより、中期計画に掲げる100人の目標を上回る143人の国際交流が実施されている。

○ 留学生及び外国人教員・研究者の生活環境整備

留学生や外国人教員・研究者とその家族への生活支援を拡充するため、「留学生・外国人研究者支援センター」(CISS : Center for International Students and Scholars) にスタッフを追加配置し、組織体制を強化している。また、CISSと地元自治体の連携協力により、市役所事務手続の英語化や予防接種スケジュール表の見直しを行うなど、留学生や外国人教員・研究者の市役所・医療機関における利便性を向上させている。